凡例

一．漢字には、数詞として使われている場合以外、振り仮名を付けることを原則とした。

なお、訳語「洗礼」については、「せんれい」と読む場合のほか、「バプテスマ」と読む場合を考慮し、例外として〔バプテスマ〕の振り仮名を付した。

二．固有名詞表記は聖書訳語委員会が作成し、共同訳聖書実行委員会が、一九八四年二月にその改訂を承認した後の「日本語表記」によった。

三．章・節区分および使用した記号

(1) 章・節の区分は、各底本に従った。この結果、とくに旧約聖書において、日本聖書協会「口語聖書」などの聖書の章・節の区分と相違する部分が生じたが、それらの個所については、付録の「旧約聖書 章・節対照表」で表示した。

(2) 〃　〃

新約聖書において、底本の字義どおり「霊」と訳した個所のうち、「聖霊」あるいは「神の霊」「主の霊」が意味されていると思われる場合には前後に〃　〃を付けた。

(3) （　）

カタカナで表記した部分の「原意」および訳語の基になった原語の「原音」をカタカナで示す方が、理解の助けとなると思われる場合などに用いた。

(4) †

底本に節が欠けていることを示す。新約聖書においては、この部分の異本による訳文を当該書の末尾に付した。

(5) ――

挿入と見るのが一般的とされている個所、および意味上、挿入句として読む方が理解しやすい個所などに用いた。

(6) 〔　〕

新約聖書においては、後代の加筆と見られているが年代的に古く重要である個所を示す。旧約聖書続編においては、主な写本に欠けている節を底本が別の写本で補った個所とテキストの字体に大小の区別がある個所を示す。

四．小見出し

本文の内容区分ごとの概括的な理解を助ける趣旨から、一部の書を除き、小見出しをゴシック体で示した。小見出しは本文ではない。なお、その下に（　）がある場合、書の略語、章・節数字は、関連個所を示す。

五．度量衡および通貨については、元の単位を原語の発音に近い表記で表した。付録の「度量衡および通貨」を参照。

六．本聖書の底本は次のとおり。

(1) 旧約聖書
「ビブリア・ヘブライカ・シュトットガルテンシア」（ドイツ聖書協会）

(2) 新約聖書「ギリシア語新約聖書（修正第三版）」（聖書協会世界連盟）

(3) 旧約聖書続編「ギリシア語旧約聖書」（ゲッティンゲン研究所）

※『エズラ記（ラテン語）』「ウルガタ版聖書」（ドイツ聖書協会）